

これが、90年代の情報ネットワークを形成する要素技術と考えられる。

5) コンピュータグラフィックスの現状と90年代の利用技術 国井 利泰

90年代は、コンピュータグラフィックスも、ビジュアルに情報を表示する、いわゆる“見る”時代から、ビジュアルな世界をコンピュータ内に作り出し仮想の世界を“体験する”時代に入った。応用も、例えば生産を生産工程への“部品の旅”として体験し、医学も高度な医療を目指し、患部を直接攻撃する“体内の旅”として体験するようになる。本講演は、このような90年代のトレンドを講演者の研究・開発している実例を通して具体的に解説する。

6) CAD/CAMの現状と90年代の利用技術 山口富士夫

CAD/CAMの技術は、営業、販売をも統合した総合生産システム(IMS)に進展しつつある。本講演においては、CAD/CAMの現状を概観するとともに、90年代において登場が予想される新しい技術を考察する。その主要な技術の一つはCAD/CAM/CGを統合する完全4次元処理の統一処理理論に基づくものであると考え、主として本技術のIMSへのインパクトを考察する。

4. 聴講無料(事前申込み不要)

5. テキスト代 定価 3,000円(消費税、送料本会負担)

6. 問合せ先 日本鉄鋼協会 編集・業務室(〒100 千代田区大手町1-9-4 TEL 03-3279-6021)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

● 材料電磁プロセッシング部会第2回中間報告会

主 催：日本鉄鋼協会特定基礎研究会材料電磁プロセッシング部会

期 日：平成3年10月2日(水) 午前中の予定

場 所：広島大学〔第122回(秋季)講演大会期間中〕

平成元年度より発足した「材料電磁プロセッシング部会」では、研究活動の柱を、

- 1) 交流磁界利用の科学と技術、
- 2) 直流磁界利用の科学と技術、および
- 3) 数値計算による現象の解析と把握、に置き部会活動を継続中である。

前回の第1回中間報告会では、第3の柱である数値解析に焦点を当て、これまでの活動内容を紹介した。今回の第2回中間報告会〔日本鉄鋼協会第122回(秋季)講演大会(於、広島大学)にて開催〕では、第1の柱である交流磁界に焦点を絞り活動内容を報告する。交流磁界は、熔融金属に対して「昇温」、「駆動」、「浮揚」の機能を有しており、材料電磁プロセッシングにおいて殊の外大きな期待が寄せられている。

今回は、Process Metallurgy分野の世界的権威 MIT 教授 Julian SZEKELY 氏の依頼講演に引き続き、部会報告を行う。

なお、今回のこの好機を捕らえ、高温物理化学の電磁気冶金のセッションでも、交流磁界に関連する発表が会員の皆様より広く投稿されることを期待いたします。

依頼講演(仮題) 「Electromagnetic Phenomena in Metal Processes」 MIT Prof. Julian SZEKELY